

〈会員のひろば〉

新たな発展をめざす自主経営闘争

高野 修 (大分県/自交総連大分地連、自主経営・再建対策委員会代表幹事)

私たち全国自動車交通労働組合総連合大分地方連合会(略称:自交総連大分地連)は、労働者自身で経営・運営しているタクシー会社を3つ(日田市の新三隈タクシー、豊後高田市の宇佐参宮タクシー、佐賀関町のセキタクシー)持っています。

私たちは、「自主経営企業」の経営や運営、事業展開などの取り組みを「自主経営闘争」と呼んで地連の重要な柱としています。

自主経営闘争の出発は、主に労働争議の結果としての「緊急避難的」措置でした。新三隈タクシーの場合、1972年春闘における前会社(三隈タクシー)の賃金遅配・偽装倒産との闘いの中から、自分たちの企業を作ることになりました。

1974年5月24日に新免認可、同年6月16日開業ですから、間もなく開業19周年を迎えます。自主経営企業が新三隈タクシー1社だけだった時は、自主経営の矛盾は地連全体の問題ではありませんでした。ところが、その後セキタクシーが開業する前ごろから、個別職場の問題にとどまらなくなりました。地連としての指導体制が要求されるようになりました。

自主経営を推進するための機構として、「自主経営・再建対策委員会」(略称:自主経営委員会)を設置し、定期総会、幹事会、三役会、各社業務責任者会議をもっています。各社には定期社員総会、経営委員会、業務会議などがあります。

ところで2年ほど前から、自主経営闘争の中で、諸問題が噴出し始めました。地連執行委員会は、これを自主経営闘争の危機の前兆ととらえ、抜本的な対策を取ることに、大分県労連の役員として派遣されていた私が、昨年10月地連に復帰し、自主経営委員会の代表幹事に選任されました。

私は、自主経営企業を、お互いがお互いを尊重しあえるような雰囲気のある企業にしていきたいと思っています。また仕事や事業の価値を再確認し、

地域に貢献する仕事を通じて、誇りを持ち合えるようにしたいと思っています。

こうしたことを実現していくためには、「自己変革」をなし、「協同のこころ」を育てることが大切だと考えています。

そこで、私はまず「情報(過程)の共有」のために、B5版・片面の「自主経営情報」を発行し始めました。10月以来今日まで16回発行しました。またB4版・両面の「自主経営ニュース」の毎月発行を厳守してきました。

また、自主経営闘争における職場労組の役割の重要性を踏まえて、「自主経営3社労組役員交流会」、「自主経営3社新入組員合同研修会」を初めて開催しました。

全国の自交総連組織の中の自主経営企業(山形に1社、山口に2社、福岡に1社)との交流・連携を強めるために、久しく開催されていなかった「山口・大分連絡会議」を再開し、合同の取り組みとして山形の自主経営企業・余目タクシーの訪問・調査を行いました。

さらに綱領的文書として「自主経営闘争三原則」(案)を提起し、今年9月の定期大会に向けて議論を開始しました。

3社の協同組成的組織である「自交サービスグループ」は、労働者協同組合グループ準備会への参加、協同総研への加盟、映画「病院で死ぬということ」の上映普及の責任主体となるなど活性化しています。

いま自主経営3社は、定期社員総会の季節です。社員総会は1年間の取り組みを総括し、次年度の事業計画、予算、役員などを決定する最高決議機関です。総会を準備する過程こそが、自主経営闘争の実践的教育だと思って奮闘しています。